

自由連合

Libera Federacio
1970年
10月25日

N-ro. 21

姫路市山崎354
向井孝太
自由連合社

定価
1部 30円

振替口座
大阪 1264
自由連合社

① ノンセクト活動者のための情報紙
② 自由連合アサキスへの政治新聞
FREEDOM & ANARCHY

「オニ三者」にとつての

入管闘争

「オニ三者」であることの意味

現在まで、私の入管体制粉砕のための闘いが、充分に展開されていくとはとても言いがたい。今までやってきたことといえば、集会やデモに参加すること、資料を作成して配布し、それをもとに自分の属しているグループで学習会を開くことがせいぜいだった。そのなかでも一番大事な入管習得すらまったく不十分にしかできていない。

もちろんこれには、現在の運動がセクト政治にひきまわされていくという外部的事情があるのだが、それよりもむしろ、われわれ、すくなくとも私が、入管体制あるいは民族差別の実態に対して加害者としての自分の位置を強調しながらも、実際は「オニ三者」的立場からの運動しか行ないえていないことによる。しかしまた、現在のわれわれにとって、われわれが「オニ三者」的立場に置かれていることを疑視せずに真の運動があることを疑わなければならない。「オニ三者」的立場を批判しながら「オニ三者」からしか出発できない順逆不二がこの運動の特徴的性格である。

戦後世代の方向感覚

戦後に育った世代にとって、日本国家による朝鮮半島・台湾の植民地支配は、自分たちが手を出したものでないから直接関係ないと考えるのが支配的である。彼らは現実の差別・抑圧についても無自覚でいる。そしてこれらの問題が社会の表面に流出したとしても、たとえば金婚老事件の場合など、それが自分に関りのある問題としてとらえられ、意識されることはない。よしんば差別や抑圧の存在を認めたとしても、それは古い時代の残骸であって、自分たちが社会の中核を占める時代になれば必然的に消滅するであろうと信じている。

これは、彼らの位相が、在日朝鮮人の社会における位相と、まったく

接触面をもっていないばかりでなく、むしろ背反する両極のものであることによる。彼らが、彼らの占める位相から差別と抑圧を批判したとしても、それはしばしば現象的に現われた差別と抑圧であって、それらを生み出す社会へ構造そのものを問題にしたことがなかった。二つの相異なる位相を巧みに組み込んだ現在の社会構造そのものを問題にしなければならぬ。差別と抑圧構造に対する闘いは、まさしくそのなかにあける自分の位相を突き崩す闘いにほかならない。

「内なる」を射る闘い

ヘトナム反戦の闘いとくらべて、入管体制粉砕の闘いは、いまだ全人間的な振りがりを見せていない。これにはもちろんマスコミによる報道規制もあるが、このことも含めて、二つの闘いの決定的な違いは、ヘトナムが「内なる」ところにある向かいだという点である。すなわち「内なる」とことは対岸の火事として自由に語られるが、近頃の矛盾を語ることは近ければ近いほどそれだけ自分自身を問題にしなければならなくなり、絶句してしまうのである。権力に、とても同様である。へ近くあるいは「内側」を問題にすることは、まさに権力にとって悪逆を極めるようなものである。その意味で、パレスチナはさらに遠く、ヒアフラははるか彼方だった。

ヘトナム反戦の闘いにおいて、内なるヘトナムが言われ、今また入管闘争において同様のことが言われてきている。しかし、ヘトナムに對する日本人の真の姿をみれば、いくらべて、在日朝鮮人、中国人、あるいは被差別部落民に対するそれはさきわめて薄い。つづけばさらに皮が破れて肉があらわれてしまう。しかもなにも一つの特徴が、支那者が分断政策は、底辺の地位を互いに脅かし、互いに争いあうように仕組んでいる。このような政策

に対して、差別構造自体の破壊——それは現在の自己の存立基盤の喪失を意味する——を目指さずに、ただ「人道主義」的立場からの非難をするなら、それは戦前の「一視同仁」的考え方と同じものでしかない。

私的な付記として

① 私が小学生のころ、私の友人たちが向で、ある人間を罵る言葉として「朝鮮人ノリ」という言葉が無自覚に使われていた。私自身はそのような言葉を使うことはなかったが、その言葉が差別用語であることを指摘することも稀であった。そしてこの稀な場合でも、何ら怒りをこめず追求ではなく、遠慮がちに、教科書に書いてあることを繰り返すような口調でいうのみであった。それは私の友人たちには、優等生ぶつた行爲として映ったであらうし、事実それ以外のものでありえなかった。

② 自らの運動の展開が不十分でしかできないのかという焦線にかられる。それはまた、この差別構造のなかで、自分がどのような役割を果しているのか、明確につかめていないからだ。この差別構造のなかで日常生活を繰り返しているが、否、否、われわれは一定の生活とその安全を、力から与えられている位置にある。少くとも在日朝鮮人、中国人のようには、集会やデモに出ること、直接強制送還に死につながらない。そして権力が私に与えているものは、在日朝鮮人、中国人、被差別部落民その他の下層階級者から奪ったことにはたしかだ。では私の果たす役割は何か。私の「オニ三者」と見える立場を利用して、「一視同仁」や「平和」と民主主義のイデオロギーを侵略者の行爲の美化のために用いると同時に、このイデオロギーを用いて、侵略者の政策から必然的に出てくる人民の分裂を人民自身の責任にしてしまおうのが役目だろうか。

入管闘争、あるいは差別構造破壊の闘いはいかにあるべきか

① 何よりもまず在日朝鮮人、中国人に對する具体的な抑圧、差別に反対し、彼らを防衛してゆく闘い。

② 人民を分断する支配者の排外イデオロギーに抗してゆく闘い。

③ しかしながらこのようなき支配者のイデオロギーが人民のなかに浸透するにほかならない。基盤があるはずである。したがって現実の差別構造をみつめる必要がある。

④ この際、階級や民族の概念が用いられることがあっても、これが逆に現実の抑圧を見すべし。その理由に對する闘争を切り捨てたりする。そして差別構造のなかで自己の占めていた位置、自己の果たしている役割を把握し、その役割を放棄し、自己の存在基盤を突き崩してゆくのはならない。

⑤ しかしながら支配者は少しやらの社会構造のほころびはたちまち補修してしまい、われわれの行動を凡庸化せ、さらには逆に体制維持の道具にすら貶化してしまおう。

(8頁オニ三者中央につづく……)

差別

闘争への提言

へ連帯の絶望へのからの出発

人道主義面して「俺は差別は悪い」と思っている「とぬけぬけ」といふやうな奴の前で、俺は「エッタ」ヘチャン「ロ」ヘチャン「コ」といふことばを意図して使うことにしている。「俺の存在自体が差別」だ、と叫ぶ未解放部落青年のことばを想起すると、へ差別、なそうそう単純にへ理論をマスタしただけで「解消されるもの」と信じていることなどないからだ。臆面もなくへ差別についてへ革命派のボーエをこつて得たりしている者に対して、俺は痛烈なイロニーとしてへ差別用語を乱発する。

へ社会構造のなりの差別

俺の郷里は西日本であるから、へ差別「これにへ部落」は多い。その多くは未解放部落である。肉屋、ワッ屋、淡水魚の養殖場、その主な職業である。庭園の育成もする。青年たちは、多くが暴力団員になったり、売笑婦になる。ならざるを得ない。

その背景には、へ観光「という名の環境破壊」とへ自衛隊「がある。売笑婦の対象は、観光客と若い自衛隊員である。暴力団の背景にもちろんそれがある。昨今の際立った特徴として、へ自衛隊「へ警察」に未解放部落の子が就職する例が多い。

権力は、へ革命派「ボルシェビキなどよりはるかに進んだへ論理」を抱えているなら、彼等を容易にへ体制内存在「として閉塞している。就職、結婚等におけるへ差別は歴然としていて、しなもそれは表面にでることなく、へ差別階級「の青年たちとはともなく、へ差別階級「の青年たちは、これらの事実を全く知らない者が多い。だが、階層固定化の徹底しつつある現代では、そのような事実を知らなくても一向生活にさしつかえない。義務教育である小学校・中学校はともなく、高校にあつては、完全に高校差をつけられてあり、中流以上の子弟と未解放部落の子弟との距離は皆無である。

へ抽象としての理想主義の萌発

「こういうエピソードがある。高校時代、俺が友人に「恋愛は自由だと思ふか？」と質問したことがある。当然の如く、彼は「ああ」と答えた。俺は嘲笑した。恋愛は自由だつて！笑わねえか？いやねえ。はやい話だ、じゃああまえのつきあひつてのは、どんな家の奴だ。たいてい同じ高橋なへそれと同等のへ高校の奴で、皆そういうもろろつてええ象の子や。抽象としての理想主義を如何にもつていようと、すでに我々は一個の檻の中にある。俺は、ヒューマニズムを信じない。人生はそんなに簡単じゃない。

彼のような男が大半であろう。その一部が、いつのまにかへ革命派「を気取り、へ差別「粉砕を叫ぶ。俺は信じない。へ差別「に対する闘争は、そんな安直な発想からでは、決して永続的に、有効的に続いたたえない。俺たちは、マスタ「エションすることをやめねばならない。ヒンチメンタリ「をやる闘争は、どんなに強いことか。

へ自立できないことへの絶望

俺には、へ被差別者「の想いなぞわからぬ。あやうく永遠にわからぬ中学時代俺が熱烈に恋した女子高が生ないたへ断つてあくが相思相愛である。若い「ころはモテたのだ！。その女子は、やはり、未解放部落民だった。俺は知っていたが、そんなことには関りなかつた。ある事件がなかつたとして、俺たちの恋は続いていたら、俺はどうしていたろうか。その時はともなく、今の俺には何も言えない。

もし、俺たちがへ自立「できようとしたら、俺たちはへ性的連帯「まで到達しているだろう。だが、支配と搾取と抑圧と、そしてへ差別「が厳としてある限り、俺たちはへ自立「なんぞ絶対にできないのだ。

へ革命派「は、へ闘争「の中での連帯を「と至極容易に叫ぶ。だが、連帯なぞありはしない。そんなものは、へ共同性の幻想「でしかない。今やルンペン「インテリゲンチヤ「

ある学生さんのデモの中にあつて、え、俺の如き卑怯者の考えること、スクラム組んだ隣りの男をあっぱりだして逃走することである。一向に連帯なんぞ感じていない。たこえ、命を懸けた闘いの中にあつても、俺がこの社会に占めているへ権力が与えているへ位置は微動だにしない。棄天的になることは結構だ。棄天的にならなや、革命だいなへ阿呆らしいこと「はやる気なし。だが棄天主義は時として退歩を強制する。徹底されることのないからだ。徹底されない革命は、裏切られた革命に他ならない。

へ現実としてのへ絶望

絶望がないのだ。俺たちには、絶望がないさ。中途半端なへ自己否定「がへ非革命「な或いはへ革命「であるように、中途半端なへ連帯「はへ裏切り「とへ不信「の代名詞だ。

へ被差別階級「の側からへ連帯への絶望「をこつて出発している「マツコ「や「ソナー「革命派の叫びを、一度謙虚に聞いたほうがいい。或いは七・七の華青印のへ差別宣言「をこつくりと心中で反すうするな。生きていくこと自体、俺たちはのいわずして「エッタ「ヘチャン「ロ「ヘチャン「コ「と叫んでいるのだ。理論や「ロ「マツコ「や「ソナー「は決して免罪符を得ることはない。観念的に俺たちがへ水平論理「をつかみえたところで、現実には複雑に組立てられたへ垂直論理「が血肉化されてある。安直な人道主義的発想をうち捨てて、俺たちは絶望をつかまなければならぬ。

へ差別「に対する闘争、ひいては「アジア革命への闘争は、へ被抑圧者「とへ抑圧者「を同時体現している俺たちにとってへ絶望「こそ原点である。へ連帯への絶望「から出発する道こそ、逆説的にへ連帯「へ到達しうる道なのだ。

（すぎたけし）

土着文明研究会会員

伝言板

BAMBI

NO.11 西田市花屋敷3の8の16 延原さん 金婚老氏との往復書簡「入管闘争をめぐるあらゆる問題が、す又峽事件、金婚老事件に凝縮されていよう。マクリン「氏向赴資料集（東京都練馬区大泉学園町三三和園大泉市民の集い）彼は外国人へ平連の米人活動家だ。



大坂拘置所のつらさ始末記

大坂拘置所より二つの手紙



差し入れの書籍類どうもありがたう。ところへ黒いソフと何のこともです。もししたらあんなの熊なしたトートでござようだんで差し入れてくれたのです。まだ手にしていませんので何のことも判りません。

自由連合18号を読んで、へ情報伝達をへるにたつて変化していく、という事実そのものが変化していくんだなあと感じました。

忘れないうちに事実を二・三書き留めておきます。

一、ハンストをやつつもりで太陽の塔に登つたのです。万博は中止しつこないから、意地を張つて本当に死んだらつまらない。それさうも警察に食べ物を運ばせて長居してやろうと、いろいろ苦心してみた。しかし結局のところ、万博警備副隊長岡田警視、水一と森永キヤラメル一箱を持ってきただけ。

二、阪大の教授がぼくを説得した。来たのは、4月30日一回きり。説得はとうぜんものなれ。

三、塔から降りたのは、いやになつたから。ささみのときは死んでやれと、決意をくりくりと煮つたのです。昨日にすっかりゆとりを消耗してしまい、そのうえ雨も降ってくるし、風邪でもひいて身体をこわしてはつまらないと思い、それで降りたわけ。記者会見要求は、ちやうどかつこうをつけるためです。

四、赤軍との関係は、ありさう云つてしまえば、全然ありせん。ハイジャック事件以来、すっかり赤軍にほれ込んでいた。赤軍は赤軍にほれ込んでいた。別にちやんと黒ヘルも用意してあったのです。どうも「坂」の字が下手なの。金色にうらななつたし、バックが金色のうらな青タオルを使ったので、黒では見えないが、いいの。黒では見えないが、いいの。黒では見えないが、いいの。

五、看手にリンチを加えたという理由で、懲罰50日面を言いわたされたため、10月21日まで純粋監禁

禁、手紙の発信をできないことになつていたので、9月24日公判当日に懲罰停止になりましたので、その日発信します。

もううん公判なんて茶番です。はくの言いたい事だけボロボロ30分ほどしやうと、それからアイと出てきます。なにしろ本が読めないの。頭に来ています。便せんはたった三枚きりです。

(大坂拘置所にて佐藤英夫)



「大坂拘置所の処遇は人権無視だ」と申立書を出すことにして、筆記用具、参考資料の閲覧などを要求して、おると、申立書執筆期間中に限り、懲罰な停止になりました。へ10月9日から再開されます。

先日、差し入れてもらった「黒いソ」に祖国と自由と「自連20号」は自動的に領置されているので、仮出請中です。二・三日中には読めると思ひます。

9月24日は意見陳述書を朗読。論旨は、「非合法だが正当だ」とです。一、19世紀ヨルジョア臨海の祭典として万博は発生し、20世紀に於けるヨルジョアの合理主義と進歩の思想の形骸化と、列国の帝国主義化、国家権力と独占資本の威力誇示のショーに変質した。

二、さらに虚偽のインターナショナル・ブライラムをありたて、万博はめいめい主権的祭典であるもの。多額の収奪を行い、假令のショーの費用を大衆の負担でまなつてきた。

三、70年万博は、安保闘争に対する精神的役割を果たし、それを暴露しようとするへるの運動に對して政府は「黒いソ」への弾圧や、15万博中興口獄の子を弾圧にみられるように、回答無用の弾圧を執行してきた。

四、岡本太郎をはじめとする、いわゆる文化人らは、口では反権力的な事を言いつたが、その裏、全面的に奉仕し、日本の文化人の数々、戦後を通じて変わらないう体質である。権力へのタリ主義をこの万博でも露呈しておいた。

五、万博の技術万能主義、人目を驚かせるだけのゆせりオン競争、

口文化人な文化人を見せびらかせるだけのアトラクションは、民衆を宣伝の対象、啓蒙の対象とするもので、本来の文化を疎外するものだ。それな額度的に華麗さをめめるのは、ヨルジョア文化の斜陽のしめであり、創造的文化とはさつたくの無縁物であつたからだ。

二二で万博は、現代における理念喪失と人同様のシンボルとなつていく。

六、以上のような状況のなかで、ぼくのつた行動は、たとえ非合法にわたるとしても道義的に正当なデモンストレーションを行なつたのであつて、形式的な違法など問題じゃない。へ鉄けるものなり試いてみろ。

ぼくの陳述論旨はさつと以上である。

それから、「行爲の背景をなす思想について述べます」と言つて、へ梅事の目白黒するまで、「内的力の象徴としての論理」とな「論理の非論理性」だから行動するものは狂気に徹すべさだ」とか、ボロボロとアハハハをあげて引きあげてきました。

今日は週に一度の入浴日、さきくろいーノートル四方の浴槽です。が、それでも風呂は風呂。なにしろこの夏、一度も入浴しなかつたので。中へ。広島拘置所にいる時、入浴中に命令無視してあはれたという理由で引っぱり出され、以来たて続けに入浴禁止をくらつていたのです。へ6月11日から今まで3ヵ月半です。

ここにいてハトは約90羽、みなどこかのハトだけけれど、ここから驚く所はあるし、食べ物は自由だから自然に住みついたものらしい。このうちぼくの扶養になつていのは約20羽。食事時には、エサをくれるさで鉄格子の下を行ったり来たりする。はじめはどのハトも同じに見えていたが、だんだん個性がわいてきた。主だったものに名前ををつけておく観察していると、ハトだつてライオンをまつているのだということわかつた。その事についてはいずれまた。

(大坂拘置所にて佐藤英夫)

「サキズムと革命戦争」 予約価200円
遅れしています。すいません。
もうすぐです。まだ少し余裕があります。予約を。

ブラックパンサーの幻想

フランク・アールド

自連へ17号までの下条との対談で、私はスラック・パンサーはスターリンニストの影響下にあると話したが、それについて読者から多くの質問が寄せられたので、ここにもう少し詳しく書いてみる。

二人の指導者

スラック・パンサーとヒュー・シール

スラック・パンサーの革命的な性格を去勢転向させたのは、エルドリッチ・クリーバーとホビー・シールの二人である。クリーバーはスラック・パンサーの知的指導者であり、米の上の魂というヘスト・セラリになった自信を書いている。彼はネチャエフの革命とカテキズムを読んで革命家になったと言っている。

クリーバーはいまアルシエリアに住んでいるが、それはアメリカで革命のための（？）婦女暴行をしたため、アメリカに居れなくて逃亡している。自信のなかで「スラック・パンサーのメンバーになる以前、私は百人以上の白人女を犯した。しかしそれは政治的な行動であった」と明言している。また彼は、アルシエリアTVのインタビューで、「アメリカの議会にマシナンを持って押し付け、俺をアメリカに再入国させるよう脅してやるつもりだ」と言っている。これが彼のやり方なんだ。

ホビー・シールはクリーバーと対照的で、スラック・パンサーの最初からのメンバーでもある。ヒュー・ニーストン（注①）がスラック・パンサーのリーダーだったころ、銃を肩にかけて警官の後をつけたものだ。彼はしばしば法律の本から革命のレトリックや引用をとりもした。ヒュー・ニーストンに出るときは、かならず彼と行動を共にし、ヒュー・ニーストンが警官と衝突を起さないよう注意した。現在ホビー・シールは、警察のスパイを殺すよう命令したという容疑で入獄中である。

スラック・パンサーと共産党

一九六七年・六八年になってからスラック・パンサーは数回警官と撃ちあっている。この事件は衆目を引きつけるに充分であったが、多くのリーダーを死に追いやったり入獄させた。そのなかでヒュー・ニーストンも含まれている。彼はスターリンニズムとは全く無縁の人物だったのだ。

その結果、二つの事が起こった。一つは、指導権が新メンバーの一人であるクリーバーとホビー・シールのもとに移ったことである。もう一つは、それによって共産党が政治的に未発達なフルールに影響をあたえ、すばやな方法を言うチャンスを得た。スラック・パンサーに得たことである。すなわち、逮捕された者の弁護士料や保釈金を提供したのだ。共産党員の手ヤールズ・ギャリは、スラック・パンサーの弁護団長になり、一方共産党員がスラック・パンサーといろんな形で接触しはじめた。

アメリカ共産党

ここで少し、アメリカ共産党について述べておこう。アメリカ共産党は、他の親の共産党とはちがって、三五年昔の考え方をそのまま保持し続けている。アメリカ共産党は、ソ連の平和共存路線をそのまま保持し続けている。アメリカ共産党は、ソ連の平和共存路線をソ連から強制された一九五七年ごろ、このフルシチョフのハスターリン批判に同調した共産党員を全員、党から排除している。それ以後二年間まで、アメリカ共産党は新メンバーを一人も入れなかった。さらにアメリカ共産党は、昨年新しいパース事件を起している。それによって、現在の党員は一万人に減っている。もっともFBIの語では、その党員の25〜40%は警察のスパイだと発表している。アメリカ共産党がその考え方を公にしなかった時期は、もちろん共産党の考え方を広めることもできなかった。

スラック・パンサーの変質

このころになって、スラック・パンサーの理論に、基本的な変化がみられるようになった。スラック・パンサーのスピーチは、スラック・パンサー・ナショナリズムは「社会主義革命」にすり変えられた。そして、新しいこの路線を批判する者——と

くに古いメンバーは、つぎつぎにパースされていった。スラック・パンサーは、クリーバーのような新しいスターの参加で、再び有名になった。スラック・パンサーをパースされたメンバー達を再組織しようとしたロナルド・スラックは、スラック・パンサーの事務所と呼ばれて出かけたところから、事務所の入口に着いたとたん、事務所の内側から発砲され殺されてしまった。

警官との戦いさきに参加した者は、組織保存のために、しばしばスラック・パンサーによって「彼らは気が狂いだ」という理由のもとに、除名されたり、パースされたりした。去年、シカゴでのイスター平和行進では、スラック・パンサーは横暴にも、「このデモはわれわれの許可をえていないデモである。今後、われわれの許可のないデモは許されない」とまで宣言している。

スラック・パンサーのスターリンニズム化

スターリンニズムによるスラック・パンサーの支配が始められた契機が明らかになったのは、一九六九年に開かれた「フアシズムに反対する統一戦線のための国民公談」である。最初、ティミトリオフ（注②）の、統一戦線を形成する必要がある長い論文が、大会の宣伝物に発表されていた。会場に着いた代表達は、共産党員がうれしそうに笑っている前で、トロツキストである入進歩的労働党（注③）のロタレックス・レイバー・パーティー（注④）が物理的な排除を受けているのを見た。初日は、共産党の理論的指導者であるハーバート・アステカーの演説以外何も行われなかった。演説者のリストとパネル・ディスカッションのメンバーは事前に決まっていた。ヘハウィマンズ・リベレーション（注⑤）に属するパネルを追加しようとする発言は一方的に拒否された。

「スラック・パンサー・ニーストン・ペーパー」は、毎月少なくとも一つのスターリンの言葉を引用し、金日成を、スラック・パンサーの気に入りの世界的指導者として、偶像化する言葉を載せている。

今春、クリーバーがアルシエリアから送ったという手紙が発表されたが、それにはスターリンの言葉が三度も引用されている始末である。スラック・パンサー（8頁につづく）

国家とエス・エス・エス

バベルの塔

「旧約聖書」創世記のなかにある、人類の言語の分裂に関する談話。「全地は同じ言語をもち、同じ言葉を話していたが、大洪水ののち急速に増加したノアの子孫たちは、東方から移動してシナに定住し、団結のしるしとして天までとどく塔を建てようとした。この人間の自力を偉大に見せようとする愚かな行為に対して、神は言語を混乱させ、互いに意志が通じないようにした。そのため人間たちは塔を建てることができなくなり、各地に散らばっていった。この「バベルの塔」の物語は、一つの言葉を話す人間の集団は協力によって天に達するような塔を建てよう力を結集することができると、ということを示している。だが、言語の分裂ないし混乱は、相互の無理解と不信・敵意を生ずることによって、その力を弱めることになる。

人間のあらゆる生活において、たんに精神生活にかぎらずすべての人間活動の基礎には、つねに言語が存在している。そしてそれは無意識に、人々の意識・思考あるいは思想を条件づけているのだ。この意味で、言語が人類の歴史に影響を与える力を過少評価することはできないだろう。

言語の統一とは

だから、支配者へ支配階級にとって、集団の意志や感情をたかめるために言語の力を無視することはできない。広大な地域一つの政治・経済的な機構に入って、その一部に権力が集中すると、中央語の普及が開始される。民族主義的傾向が強いれば、同一系統以外の言語の撲滅ないし禁止が言語政策としてとりあげられる。その国家が多民族国家であれば、支配民族の言語が強調され、被支配民族の言語が軽視され、時には弾圧される。言語の統一は、国家統治の基本的な政策なのだ。

「共同性の幻想的形態」
としての国家と言語の統一

支配階級の階級的な諸利害を社会全体の利害として、通用させるためにうちたてられた国家——そのへ幻想の共同性へは、他の国家との排他的な関係へ言語の相異——自国内で統一された言語を基礎に、言語共同体として形成されている。標準語政策、それは近代国家にとって本質的な事柄である。その上には国家は、税制、法体系、国債制度、学校教育と国民教育をうちたてることができると。

国家

僕たちの「言語」の獲得
したがって僕たちの国家の国

「国家をこえる国」は、まず、僕たちの「言語」を獲得することから始めなければならない。だがそれは戦後の世界体制を表明している「世界語（国際語）——英語の獲得でなく、その要がえしにすぎない中国語の獲得でもない。それは、公平中立な人工国際共通語「エス・エス・エス」の、なくとくでなければならぬ。

エス・エス・エス

民族主義と国際主義の統一
エス・エス・エスは、現在ある言語を一切無視して作られた論理的な記号体系としての人工語ではなく、今ある自然語から必要な要素を取り取り、諸言語のうちから共通の要素を取り上げ、整理して作られたものだ。エス・エス・エスは、今世界語として全人類にその使用を要求するものではないけれど、国際生活・国内生活のあらゆる場で、僕たちの真の「母国語」——として使われる言葉だ。エス・エス・エス、それはまたるべき時代の主人類の普遍語を展望しつつ、現在において中立的な国際共通語としてある。民族主義と国際主義が交錯する現代世界を、僕たちはエス・エス・エスを通して見る必要があるだろう。

エス・エス・エス運動とは

エス・エス・エス（社会文化運動）は、民族語を基礎に成立しているへ幻想の言語共同体としての国家、その文化・イデオロギー体系に抗して、僕たちの文化を創出し、権力を

とりきき、権力を混乱させ、崩壊にみちびくこと、それが目的であり運動そのものなのだ。エス・エス・エス運動、それはあらゆるエス・エス・エス者、き込んだ国際的な文化を創出する運動である。この文化運動が社会運動として動き始めたとき、僕たちの生活は、真に国家の国いに突入するだろう。

（早大エス・エス・エス同好会）

SATと 絶対自由主義者 フランク・ジョーンズ

エス・エス・エス運動にSAT（世界無国家主義者連盟）というのがある。SATは最初、エス・エス・エス運動のなかでも社会主義運動に関心をもつ者——社会主義者、共産主義者、アナキストらによって成り立てられた。創立者の一人にランティ（彼は早稲に在ったときあり、石川三四郎、山本義典らのアナキストと交際している。）があげられるが、彼はフランク・ジョーンズ共産党員であった。SAT内には果敢うコミンテルン派の共産主義者やSATのイニシアチブを強引に独占し、引きまわしをしようとしたためSATは遂に分裂してしまい、共産主義者はSATから去っていった。SATに残った共産主義者は脱党・離党し、分裂後のSATは自由社会主義的傾向をあげて今日に至っている。機関紙として「ペンナチウーロ（無国家）」を出している。

SATのなかでもより明確にアナキズム的、サンジカリズム的、絶対自由主義的傾向を示す者たちは、*Libertarian Faction*をフランク・ジョーンズを中心に組織している。この「フランク・ジョーンズ」は、現在のSATの非行動的・理想的性格をのり越えるものとして、現実の身体制闘争に深くかかわる必要性を求めている。イギリスの *Esperantist League in Anglo*、この「フランク・ジョーンズ」に参加している。最近このグループと連絡がとれ、日本の絶対自由主義者エス・エス・エス運動との交流、日本での運動の組織化を提案してきた。このグループと交流を望む人、日本でも絶対自由主義者エス・エス・エス運動を展開することに賛成の人は、自由連合社尾崎弘まで連絡して下さい。なお彼等は *Libertarian League* という機関紙を出しています。ゆーじに *La Libertaria Pensa* (16冊)、*Libertarian* *Vukonceptoy pri Socio Organizado* (36冊) などがあります。

金ヶ崎の総括 PART II

怨念の墓標

3月16日、万博犠牲者追悼集会が三百名の仲間が参加するなみであつた。

警察や商店連合会にまつてあつた。金ヶ崎の集會は、必然的に金ヶ崎の仲間を去勢することにある。そうであるに、金ヶ崎の仲間が依拠し、その解放を目的とする。上初、屋外集會は、三百名へ、新発表の仲間を結集してあつた。

「人種の進歩と調和」の美名のもとに名をなく死んでいった。何名か、万博関連事業を含めれば六百名。この仲間たちに対して、「国のために死んだ尊い犠牲者」を石坂会長談、というふうな態度に對して、われわれの怒りを示すものである。墓標もなく無縁墓地に投げ込まれた多くの仲間たちの怨念の墓標に、われわれ自ずから設定し、叩き壊す。われわれの宣言する機会となった。集會終了後二隊にかけ、一隊は安部万博防衛共同のデモに合流し、万博中口までの座り込みを貫徹した。もう一隊はテーマ館の空中回廊からビラをばらまいた。

この闘争で、シンボルを求めて5名の逮捕者を出した。

敗退するなでー自己総括として

以後われわれの活動は、組織内部における学習、討論、全港西成力会での活動、全国的な政治課題闘争および大阪港軍港化阻止共闘を通じての地域共闘の模範となる柱となった。そして、その三つの戦線で敗退していった。

学習討論会の失敗の過程は、組織内部における力業の発生であった。原稿を作り、リッティン等、問題を提起し、集會で報告、発言する部力が固定し、他の部力が疎外され、情熱を冷却させていった。ことに、われわれのそれは、金ヶ崎の集會に存在をなけ、日共諸君に批判を断定的にあつた。その結果として、組織的にも理論的にも高度の集會であると思ひ込み、みなもそのようにふる

まいった。学習会、討論会もそれに見合ったものとならなければならぬ。と考えていた。しかしその断絶に気がついて、初步的な問題なら再出発しようとしたときには、学習に対する意欲は完全にさめていた。

つぎにわれわれはこの問題を地区共闘のなかで解決しようとした。地区共闘のもっている弱点とは、ついに彼らの闘争に対する個人の誠意で、それがそれまでのわれわれに欠けているものであり、それを共闘することによって学習しようとした。

しかしこの計画も裏目に出た。闘争の厳しさに耐え切れず、ステッパ一張りを担当するなら用もないのに集會に参加しなかつたり、参加を自ずから提起してあきながらデモ途中で放棄したり、金ヶ崎の仲間が長髪を切つていこうと野次られたり、全員解雇撤回闘争を闘っている組合の支援闘争に高々々々をはいて出かけていって、理論的正当性のみを主張する。うなごうなごうな統一。

西成力会のなかでもつねに積極的に向いながら、上部団体の取引材料にされ、4月21日には危うく警察に売り渡されようとしたのを、新記者の連絡で助つたりする事件が起つた。われわれの運動が一環して利用されてきたような錯覚に襲われた。

とりわけ地評からのオルタナティブ運動には理屈のようにな集會をやろうと言いつつも、万博特組に入りひたりで、夏にはとうとう一度を顔を出さなかつた。さるで彼ら金ヶ崎の腹を恐怖しているところを思えない。われわれは金ヶ崎を免罪符闘争として利用する者やそれらの追隨者と徹底的に対立する。

しかし、金ヶ崎が現に存在し、真に金ヶ崎をへ見たへ人間なかつたりでもいるなぞ、同じ組織として決して留まることはない。戦いはまだ終つてはいない、今始つたばかりなのだ。

では、その闘争の新たな出発と発展を保障するものは何であるのか。いかなる闘争でも、その第一段階において、人民大衆のなかに深く根をおろせるまで同じ叩く部力を、構築することなしに同じとなること

はできない。

われわれは「政治の六月」に、われわれのなかにあつても置かれたイデオロギーであつた西長と呼ばれる男を敵権力の手で殺されてしまった。

進んだ部力とあつた部力の間に、不断の緊張関係が保持され、この外的な関係があつた部力の意識内部に転位をもち、そこにあける矛盾が激化する。この転位のエネルギーが創出される。この転位が起る以前に両者の間の張りつめた糸が切断されるなら、意識変革のための自己運動は望めない。

西長の批判復讐は遠からず実現する。外部主入的ではあるが同志の結集を進んであり、西成力会の10月組織拡大闘争をわれわれが主体的に取り組むなかで金ヶ崎の仲間とを固く結びついている。われわれの勝利を保障するものは、3月の金ヶ崎の仲間たちの内包する巨大なエネルギーにほかならない。

金ヶ崎こそ叩いて

日本帝国主義の勢力圏の拡大とともに、それに対する闘いの戦線も拡大している。

一〇四〇万人の組織闘争者とりわけ現在の日本の労働運動の主力である基幹産業上層労働者は、打倒されるべき小資本一点にすぎない。われわれは唯一望みをなくすのは、二五〇〇万下層未組織労働者、零細農民、家内工業労働者である。

資本主義が人間を一面化する。ことによって維持され、共産主義社会が人間性の全面的開花を目的とするならば、一面化されている度合が強い部力ほど闘いのエネルギーを蓄えている。金ヶ崎は資本主義社会の矛盾の集約点である以上、それを打倒する闘いもここから始まる。

へ補遺

われわれは若干の意見の相違にもかかわらず、金ヶ崎の仲間が、参加された諸君と良好関係を保持したのは、彼らに同あつとする意欲が感じられたからであり、またすべてのものが不断の変化のうちにあることを信ずるからである。叩きを忘れたものはアブキフたり得ないし、不断の自己変革を忘れるものはマルク又主義者でありえない。

叩きを恐れ、自らを叩くことの方便としてアブキムを利用した部力に、われわれは「フーテン・エゴ」(8頁中段へつづく)

（前頁よりつづく）
ず、一方的に終ってしまおうというところでは、左翼層の若者や学生との間には相当の違ひがある。そういう下毛性な及ぶなら、今後を考へてゆくにすれば、どういふ方向をめぐすべきか。

三里塚闘争を自己の基盤に
環流せしめない者の方途

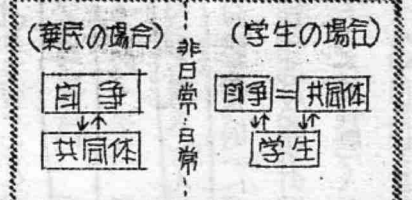
一つに、今日常と生活基盤などすべてを放棄し、党派の戦士に徹するものもある。それは、党派が主張し、党派が維持することによって、党派に隷属せしめ個人の内争を保持せしめようとするものである。しかし、党派の論理は、その属性として位階別を生み出し、規律や内ゲバすら不可避のものとなる。この発想はもうろくにわかれのものではない。

もう一つの道は、へ生活手段などを共有する共同体へ人間的基盤を創出することである。しかし正直云って、党派的な集団では無い小集団連合方式というのは疑問である。生産手段を持つていてものに對して、任意で主体性のみに頼った集団というものは耐え得ない。主体性とは自立、強い個人というものはあきり信じられるものではない。小集団にしろ持続してゆくためには、肉體的結束であるとな、生産手段の共有とな、生活をともにするなといったことな必要となってくる。そうであるならばたの人の群で終ってしまひ、何ものも持たず流れていく人間をつなぎとめておく基盤には求てなり得ない。

私が想定する共同体は、三里塚農民が私有地や自然発生的な共同体を軸として自衛的闘争に持ち込んで、そういつい現実的な軸を人工的に造る共同体である。簡単に言えば、目には目を、へ生産手段には生産手段をというやつである。いずれにしろ異物としてのイヤラシさはついてまわると思ふが。

へ補注）もう学生と安定労働者の場合、純粋な地味な共同体もあり得ない。農民であり、しかも闘争を維持せよというところから相当な覚悟をなくくちやうないというところ、現在よくわれている多種多様な闘争の重層的連合という方式は、学生であるとか、職場・地域をもつ人々を中心にしたものと思ふ。

闘う共同体の可能性をめぐって



闘う共同体というものが学生であるというところどういふ関係の仕方をしていけるのかを考へてみる。私などの流動農民層の共同体の関心とは異っている。

学生にとって共同体は並列の関係にあり、いずれも学生であるという基盤に對して成り立つるものである。私の考える共同体は闘争と直列の関係にあって、共同体即ち自己の基盤であるという考え方である。

共同体と闘争の結びついた闘う共同体というものは一時的、非日常であつて、学生である自己を告発し、変革を促していく密体としての位置にある。政治闘争というや一層の要素のみなならず、労働とならぬ関係とないうや二層、や三層をもつて用と企てる領域の拡大として位置するのではない。

今のところ種々の要素が未分化のままで具體的なところまで至らないが、今後を思想的深化をともに期したい。

（山口さとし）

① 外なるものー反帝闘争へ拒絶・反基地など）
② 内なるものー人間関係・労働・内面変革（労働・キャンパス）
③ 闘う共同体は①②の結合による。この

へ続稿のための覚え書き

① 権力者、支配者、収奪者を打ち倒さない限り、差別の構造は消失しない。しかし彼らを倒しただけでは構造はそのままだけり、新たな権力者、支配者、収奪者にそれを利用されることになる。構造そのものの破壊をいかなるものでもない。

② 入管闘争は、日本の労働者階級が支配階級と運命をともにする人民族Vになつてしまふか、それとも大杉がいつか主張したように、自らの階級を民族として形成してゆくかの分岐点である。へ大杉・民族国家主義の虚偽に参照し、村木 誓一

金竹崎闘争の総括

アサギブレットのレットルを張って、金竹崎闘争の闘争なら追放した。なれど自連20号以来の闘争なら追放した。二回目は、金竹崎は、いまだに押戻する金竹崎解放戦線 風の又三郎

4頁 フラッグ・パンサーのつづき

の本部の事務所、スターリンの巨大な胸像があるのも記憶されるべきである。

① ヒューイ・ニュートンは最近出版して、再びフラッグ・パンサーを指導しつつある。おそらく彼がフラッグ・パンサーが生き残るための最後の希望である。フラッグ・パンサーは警察による激しい弾圧のもとで、現在八百人ほどのメンバーしか残っていない。② ドミトリオフは殆ど忘れられてはいるが、スターリンの統一戦線V時のコミンテルンの指導者である。③ 進歩的労働党は、アメリカ共産党から分かれた親中国派で、一九三〇年以來、共産党のイミテーションとして発達してきた。フスターリニズムの歴史的役割ーラテイカルな運動を破壊してきたこととに對して共産党を批判している。④ エルドリッチ・クリーバーは、一婦人が出来る唯一の革命的な仕事は、革命のために用いえる男の子をつくることだと発言している。

編集室

① 自連は毎月5日と20日の両方とも忙しくなります。封筒作り、宛名書き、印刷、トマティンタ、発送など人手のいる仕事がたくさんあります。月の何日か、又は何時向かを自連製作のために使おうという自覚ある自連社員の出し出を待っています。手付下下さる方は手紙を下さい。アシトの住所を教えてください。② 自連の立ち上りをしませんが、東京ではすでにいくつもの大学祭や半額へ一都につき15円を自連社に残りは活動資金に充てて下さる結構です。③ 自連の新しい委託販売店を南中、行きつけの本屋や大学生協に打診してみてください。精算が問題なのでありません。店頭で置くことによつて未知の読者に多く出会ったからです。④ 現代の眼と11月号にビクトルセルシユの「クロンシュタット」が誤されてしまった。これは自連社でも誤しかけていたものに頭に来た。とりわけ、クロンシュタットを過大視することは危険だ。それは歴史的必要から見たら、クロンシュタットに關する、トロツキーの論を讀むとまるで居直り強硬のようであり、セルシユの原本が、よりタリヤイというイギリスの絶対自由主義者タルーのパンフレットであることを見え合せると、これを取りあひに連中はまるで他人のフンドシで相撲をとる人間といわざるを得ない。⑤ 今度は泣き言を云わず、気分狂いせず、何と云ふに云ふ。相当讀みにくいと思ひます。ごめん、一もんぢやありません。